

アフガン復興へ 広島歩み学ぶ



松井市長と握手するサレーさん

政府職員が市役所訪問

内戦からの復興を進めるアフガニスタンの政府職員9人が12日、広島市役所に松井一実市長を訪ねた。中区の国連訓練調査研究所

(ユニタール)広島事務所所長と握手するサレーさん(左)と松井市長(右)が握手している。サレーさんはアフガニスタンの政府職員で、広島市役所を訪ねて、復興の歩みを学ぶ。サレーさんは「アフガニスタンの復興に当てる資金を確保する」とも話した。

15日までの研修には政府職員72人が参加しており、9人が代表として松井市長を訪問した。電気や水道などのインフラ復旧に当たる開発庁職員のグル・サレーさん(57)は「広島でも広め、一刻も早い復興を目指す」と意気込みを語った。松井市長は「平和の心を持ちリーダーシップを発揮して」と激励した。

市や県が運営費を負担するユニタール広島事務所は開設した2003年から毎年、アフガンの復興に携わる関係者を広島に招き、原爆被害から復興した被災地の歩みも踏まえた研修を実施している。今回を含め計約420

人が参加した。(新山京子) ユニタール広島事務所は13日午後6時から、アフガニスタンについての公開講座を中区の原爆資料館東館で開く。予約不要で無料。サイド・ムハンマド

・アミン・ファティミ駐日大使がアフガンの現状や大統領選が予定される来年以降の展望を語る。在アフガニスタン日本大使館の河辺章子書記官たちが、日本の支援状況を話す。約1時間半の予定で同時通訳もある。

13 Nov 2013, Chugoku Shimbun
9 government officials from Afghanistan visited Mr. Matsui, the mayor of Hiroshima City.